

【資料5】

道の駅おがちの役割と検討の方向性について

湯沢市都市計画マスタープラン 将来都市構造

(1) 基本的な考え方

湯沢市は、市域の約8割が森林となっており、南北に流下する雄物川・役内川流域に湯沢地域と雄勝地域が、皆瀬川流域に稲川地域と皆瀬地域が位置し、東北中央自動車道、国道13号、国道108号、国道398号を中心とした骨格道路が隣接都市や各地域を連絡する都市構造となっています。

湯沢地域は、市街地を中心に、商業・業務などの日常的な都市機能や高次医療・文化などの多様な都市機能が集積し、路線バスによって各地域と連絡されており、湯沢市の都市機能の中核を担っています。

一方、稲川・雄勝・皆瀬地域では、各総合支所周辺に日常的な都市機能が集積しており、地域の市民生活を支えています。

市域南部の豊かな自然と豊富な温泉資源や雄勝地域の道の駅周辺は、観光交流の中心となっています。

今後は、人口減少社会においても持続可能なまちづくりを推進するため、現在の機能配置を基本としながら、都市機能が集積する各地域の拠点を中心にコンパクトなまちづくりを進めるとともに、各地域の地域資源を活かした交流を促進しながら、地域間の連携を維持・強化することで、市民生活を支え、活力を生み出す集約型都市構造を目指すものとします。

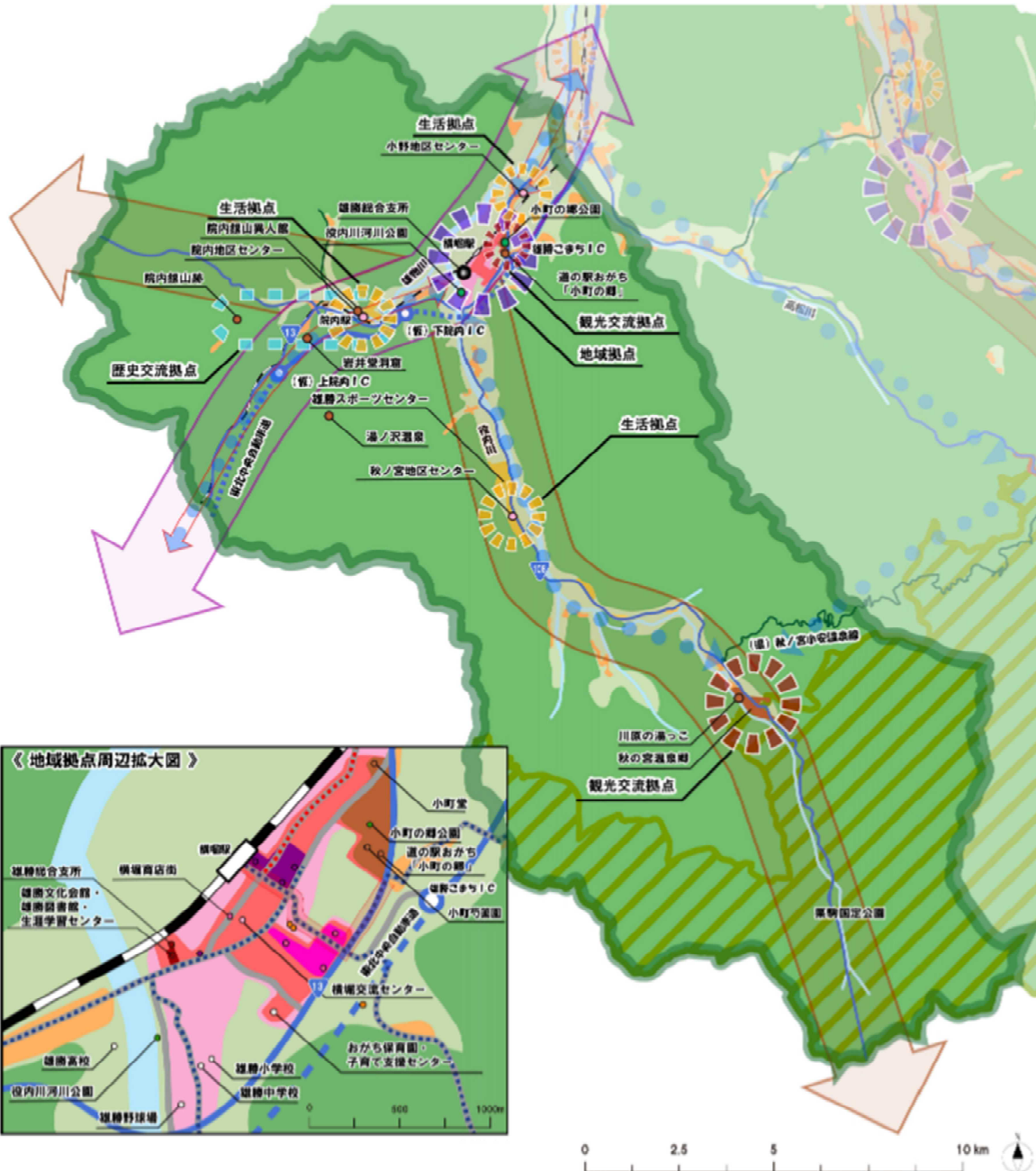
(2) 将来都市構造形成の方針

将来都市構造は、土地利用状況に着目したゾーンを設定した上で、湯沢・稲川・雄勝・皆瀬の各地域に、市民生活を支える持続可能な拠点を配置するとともに活力を生み出す交流拠点を配置し、連携軸で拠点相互や市外を結節する都市構造の構築を目指します。



交流により価値の創出や地域の生活が継続するまち

【雄勝地区のまちづくり方針図】



まちづくりの方針(抜粋)

1. 資源を活かし地域の価値を生み出すまちづくり

＜魅力向上の支援＞

- ◆道の駅おがち「小町の郷」などにおいて、農林産物や特産品の販売や地産地消を推進

＜交流を促す環境形成＞

- ◆集客力のある道の駅おがち「小町の郷」の適切な管理を行うとともに、雄勝地区や市内の情報発信の強化や市民と来訪者の交流の場としての活用を図る

2. 役割分担と連携で地域を支えるまちづくり

＜地域内交流による地域拠点の形成＞

- ◆現在、交通結節点となっている横堀駅に加え、地域の交流の場でもある小町の郷公園が隣接して整備された道の駅おがち「小町の郷」に新たな結節機能を導入し、地域のおでかけと交流の活性化、地域住民の利便性向上を促す

道の駅おがち「小町の郷」とその周辺の重要性

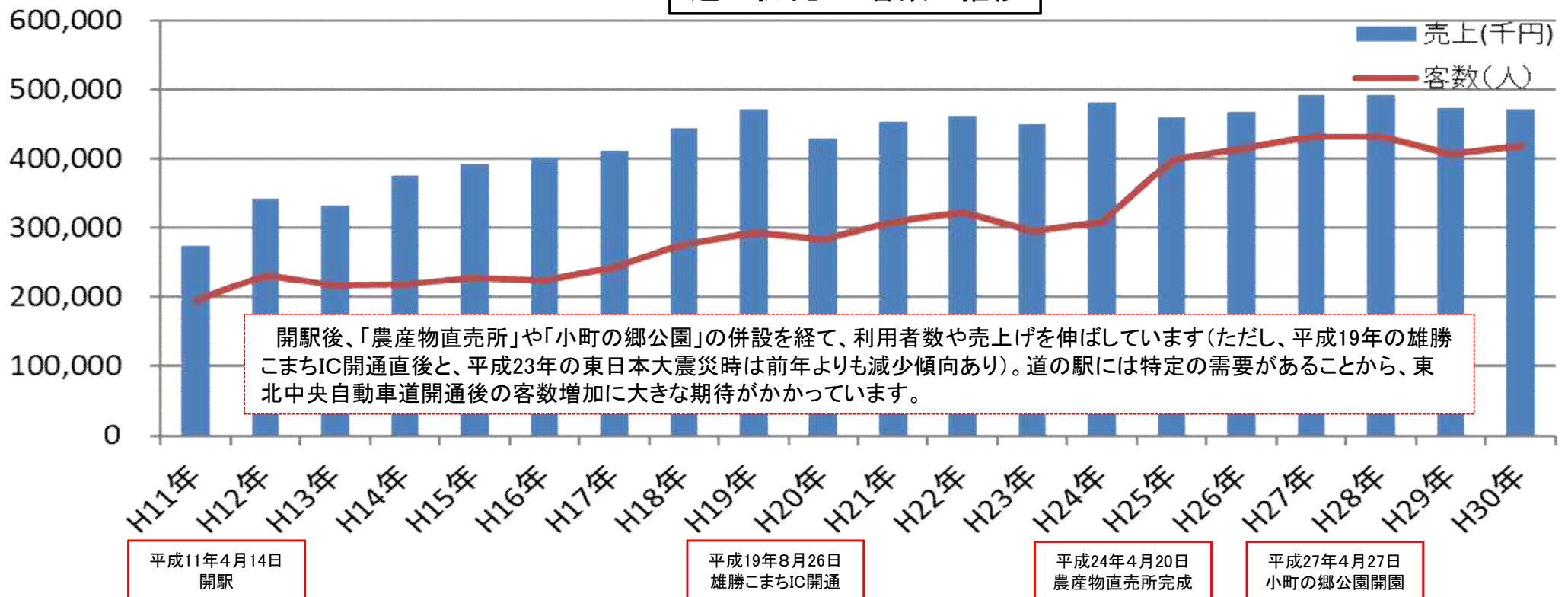
雄勝地区における道の駅おがち「小町の郷」は、東北中央自動車道・国道13号・国道108号などが交差し、また秋田県の南の玄関口に立地していることから、周辺への観光拠点として非常に好条件にあります。さらに、近辺にはガソリンスタンドやコンビニエンスストアなどが複数出店されており、パーキングエリアやサービスエリアの代替機能を有していることから、東北中央自動車道の開通による相乗効果が期待されています。

そして、隣接する「農産物直売所」では地元の農家同士や来訪者との交流が生まれており、「小町の郷公園」では各種イベント開催や子育て世代の交流の場として賑わいがあります。道の駅は、市内で最も観光入込客が多く、地元利用者も日常的に存在しており地域の活性化につながっています。

さらに、近年では集中豪雨、台風や地震などの大規模災害が全国的に頻発しています。地域住民や来訪者を含めた安全・安心のため、道の駅には有事における役割も求められます。

これらにより、雄勝地区のまちづくりと発展には、道の駅および道の駅周辺が果たす役割が大変重要であり、今後の高規格道路開通に向けて施策や取り組みを検討する必要があります。

道の駅 売上・客数の推移



雄勝地区の四季を通じた祭事・イベント

雄勝地区には「小町まつり」に代表される各種イベントや、「おしら様の枝垂れ桜」の名所、「秋ノ宮温泉郷」など魅力的な観光資源が多数存在しています。また、道の駅でも「収穫祭」などを季節に合わせて催し、通年にわたって県内外からの集客アップを図っています。道の駅が観光拠点となり、商工観光団体・まちづくり協議会・地元住民などが一体となって取り組んでいます。

<春>



道の駅「周年祭」

毎年4月に開催している「周年祭」。子供から大人まで楽しめるイベントを用意し、地元住民と喜びを分かち合う。



おしら様の枝垂れ桜

県内外から多くの観光客で賑わう。開花時期にはライトアップもされ、雄勝地区における屈指の観光資源である。

<秋>



院内銀山まつり

明治天皇が院内銀山に御臨幸された日を記念したものであり、地域住民による銀山踊りが見所である。



道の駅「収穫祭」

毎年9月に開催、地元住民はもちろん市外からの観光客が集まる。公園側は多数の出店で賑わう。

<夏>



小町まつり

平安歌人の小野小町を偲ぶ祭り。県内外からも多数の来場者があり、雄勝地区を代表するイベントである。



雄勝花火大会

例年、県内外から10万人が訪れる大規模な花火大会。雄勝こまちICからは約1.5kmの距離。

<冬>



雄勝の雪まつり

「小町の郷公園」を会場に、様々なカラ雪像や、小町太鼓の演奏なども行われ、観光客や親子連れで賑わう。



かだる雪まつり

秋ノ宮温泉郷で3,000個の「ミニかまくら」が幻想的に揺らめく。地元住民やボランティアなどの手作り。

役割分担と連携で地域を支えるまちづくり

住民

小町まつり、雄勝の花火などのイベント開催、おしらせなど観光資源の提供による地域活性化など

道の駅

集客力アップに向けた企画の検討や情報発信、既存資源のブラッシュアップなど

市

施設の修繕、リニューアル
まちづくりの方針の検討、実現に向けた施策の展開、市民活動の支援など

国・県

道路などの環境整備、補助事業による支援など



「周年祭」のひとコマ。
小町娘・ゆるキャラによる撮影会。道の駅は、雄勝地域の観光資源のPRの場になっている。



直売所の収穫祭。
地元住民による芋の子汁の無料提供。雨天にもかかわらず行列ができ、活気に満ちている。



「小町の郷公園」の夏祭り。
池にイワナを放流し、みんなで手づかみに挑戦。大人も子供も喜んで参加し、笑顔があふれている。



道の駅「収穫祭」。
民間タイアップによる、青森県産の「ホタテの貝焼き実演販売」。来場者が多数ならび、大盛況。

道の駅おがち「小町の郷」の防災機能

～道の駅としての災害への備え～

従来、「道の駅」は休憩機能、情報発信機能、地域連携機能の3つを基本として整備されてきましたが、過去の災害時には避難先、復旧車両の駐車場、救援物資の配布場所などとして機能しています。

全国的に大災害が頻発するなかで、「道の駅」が防災面で果たす役割には期待がかかっています。地域住民はもちろんのこと、「道の駅」利用者、開通後の東北中央自動車道利用者などにも対応できる環境が求められます。

こうしたなか、道の駅おがち「小町の郷」は、公園が湯沢市地域防災計画において指定緊急避難場所として位置付けられており、また国とは災害に関する協定を結んでいます。さらに、広域防災拠点として必要とされる、非常電源装置、貯水槽、トイレ整備、情報通信設備なども導入しながら災害に備えています。



防災行政無線(イメージ)
公園に令和2年度設置予定



想定収容人数は16,085人



災害時に強い公衆電話
(バリアフリー対応)

【要配慮者対策】

東北中央自動車開通による往来増に伴い、要配慮者(インバウンドを含む外国人、身体障がい者、乳幼児など)への対応も求められます。道の駅として機能強化してきた既存設備(多言語表記、授乳室、身体障がい者トイレやカーポートなど)が、災害時にも効果を発揮します。



オストメイト設備



カーポート設置(障がい者スペース)

【県境部としての立地条件】

県境部に近いことから、災害時には越県した災害対応も想定されます。広域的な防災拠点としての整備とあわせて、高規格道路とのスムーズな結末機能も求められます。



非常用電源装置



貯水槽の設置

これからの取り組み(一例)

雄勝地区には、地域住民や民間団体等が開催するイベントや魅力的な資源が多数存在することから、これらを結ぶ観光資源ネットワークと、東北中央自動車道・国道13号・国道108号の交通ネットワークをリンクさせながら取り組んでいく必要があります。

県南の窓口として、東北中央自動車道開通後の道路利用者を単なる通過者としてではなく、まずは一度立ち寄りてもらい、さらにリピーターへと押し上げていくことが、地域活性化や地域産業の振興につながります。その受け皿となる道の駅および道の駅周辺においては、道路利用者が少しでも立ち寄りやすい環境を整備しつつ、地域活性化の場・観光拠点・広域的な防災施設等としての機能強化に取り組んでいくことが求められます。

【まちづくり】

- ・積極的なイベント等の企画や地元住民の参加により、交流人口の増加を促し地域の活性化を図る
- ・リピーターを呼び込める魅力的なまちづくりを目指す
- ・貴重な観光資源を後世につなぐため、後継者の育成に努める

など

【観光・産業振興】

- ・集客増によるイベント回数の見直し、既存イベントのブラッシュアップ、情報発信の強化
- ・インバウンド対応の強化(キャッシュレス決済環境、多言語案内標識、情報端末への電源供給機の整備 など)
- ・周遊観光に向けて、観光資源の再発見や、点在する資源のネットワーク化 など



【防災】

- ・地元の避難先としてのほか、将来的に高規格道路利用者が増加することからも、要配慮者等にも対応できる機能の強化
- ・道の駅のBCP(事業継続計画)の策定
- ・小町の郷公園を活用した防災訓練の実施

など

「道の駅」を活用した高速道路の休憩サービスの充実

< 背景／データ >

- ・無料の高速道路は、今後、整備が急速に進展していくが、休憩施設はほとんどなく、休憩サービスの提供が必要

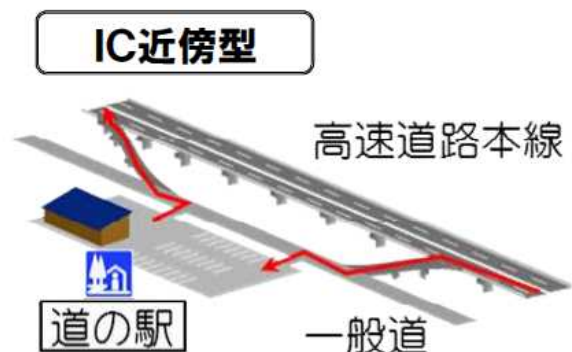
無料の高速道路

現在：1,964km → 今後：約3,300km

(平成28年7月)

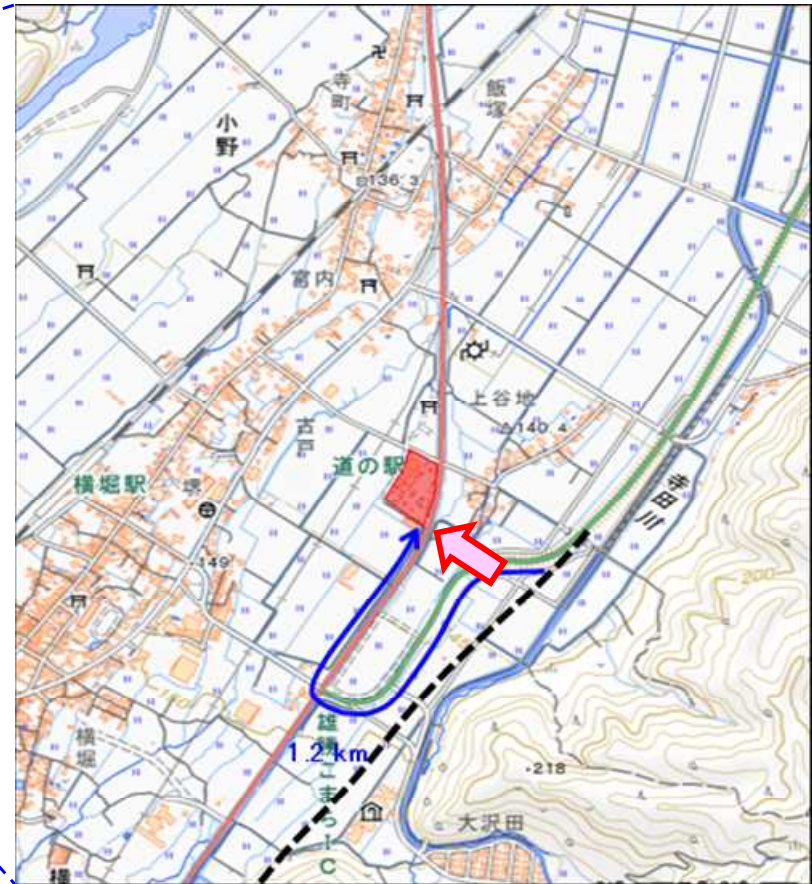
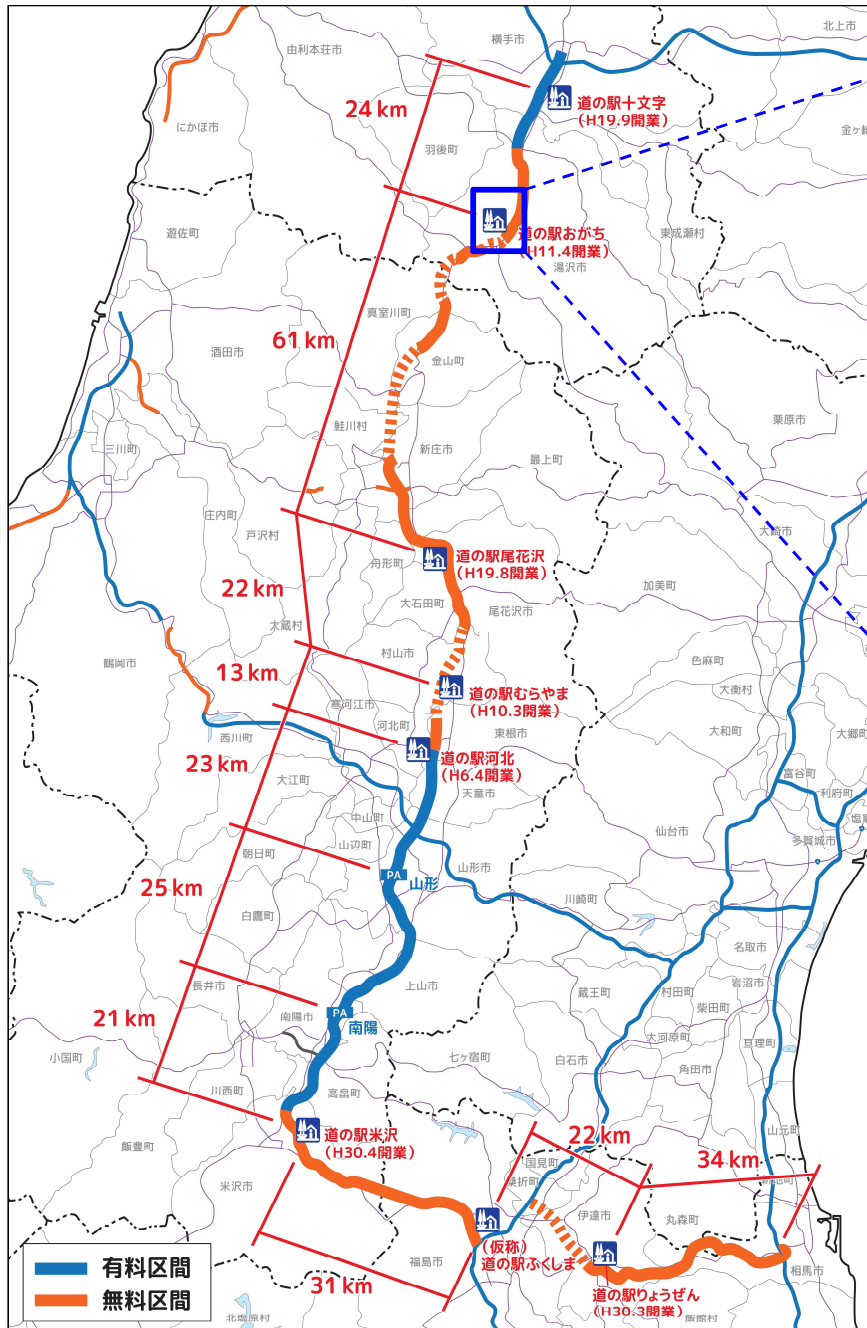
(事業中区間整備後)

- 「道の駅」の施策を活用するなど地域と連携して、休憩サービスの提供を実施
- IC近傍の「道の駅」は、高速道路から案内し、休憩施設として活用
- 有料区間においては、一時退出の実験を実施し、取組を推進



東北中央自動車道の休憩施設としての道の駅「おがち」

■東北中央自動車道沿線の休憩施設

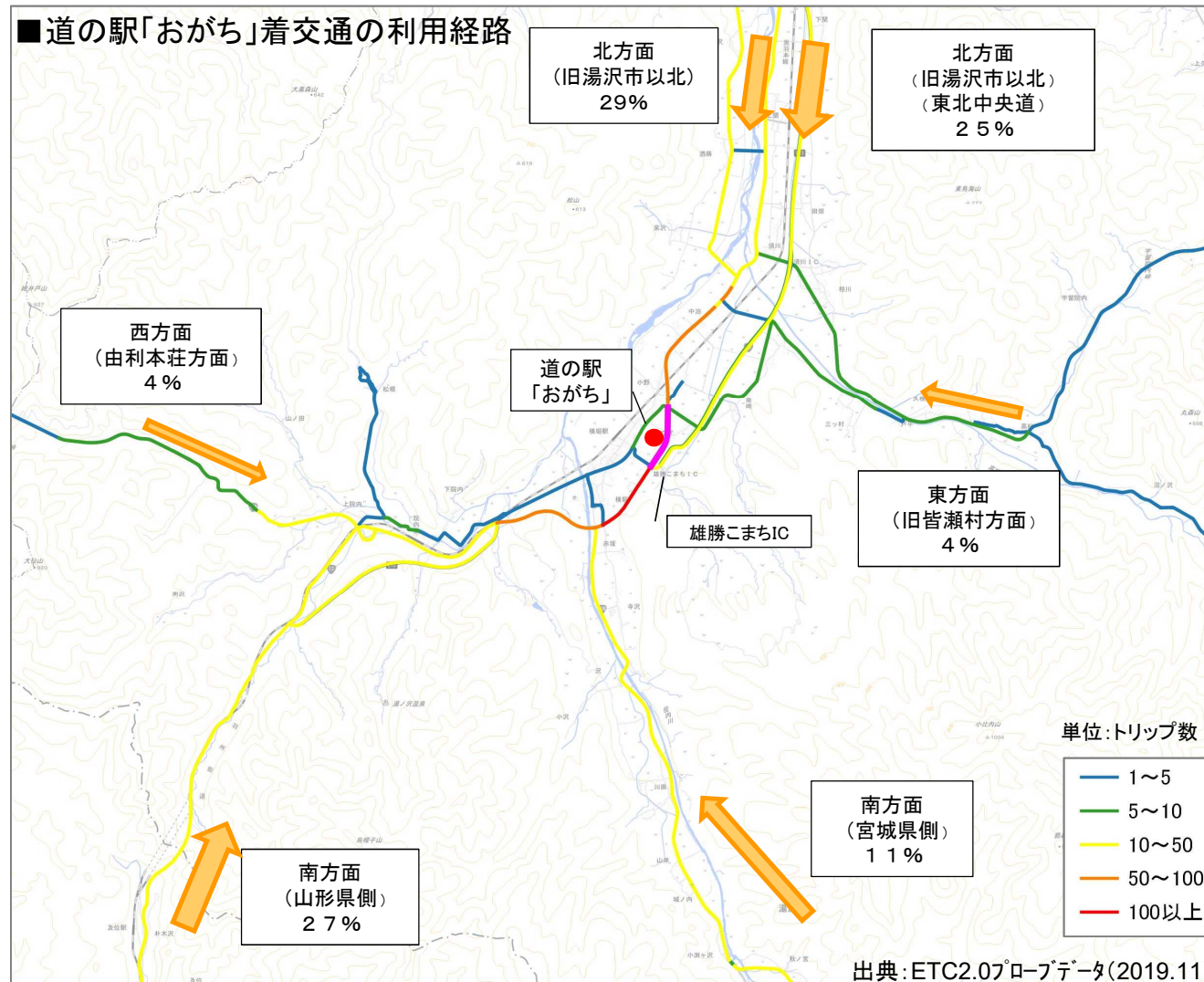


〈道の駅おがちの立地条件〉

- ・秋田県南地域の玄関口
- ・道の駅「尾花沢」以北で最初の道の駅
(道の駅間 約61km)

道の駅「おがち」の利用実態

- ◆道の駅「おがち」は、東北中央道を利用し湯沢市以北から来訪される利用者(25%)、県境を越え山形方面から来訪される利用者(27%)が多く、全体の5割以上となっており、広域的な利用となっている。
- ◆今後、横堀道路の供用をはじめとした東北中央道のネットワーク化が進むことにより、より広域的な利用を視野にいたした検討が必要。
- ◆地域の道の駅から高速道路の休憩施設としての機能に配慮した利便性の高い「道の駅」の構築に向けた対策が求められる。



検討の方向性

利用促進メニュー(案)

- ・地域活性化の場、観光拠点として道の駅および道の駅周辺に如何に広域からの来訪者を呼び込むかの活性化メニューの検討・実施。
- ・横堀道路、東北中央自動車道全線開通後を見据えた利用促進メニュー（「道の駅おがち」が目的地または経由地となるような取り組み）
- ・道の駅おがちの魅力を広域的に広報するツールの検討
- ・地域の防災拠点施設等としての機能強化を図るため、官民の力を合わせた取り組み。

利便性向上メニュー(案)

- ・東北中央自動車道の休憩施設としての利便性向上。
- ・道の駅利用者・道路利用者目線での「道の駅おがち」と「雄勝こまちIC」のアクセス改善
- ・東北中央自動車道からの案内(標識)